

「鬼子母神像（朱漆塗り厨子入り）」

（教育棟二階に展示中の「隠れキリシタン遺品収集」より）

キリスト教が禁止されていた時代、隠れキリシタン達は鬼子母神像を聖母子像にみたくて大切にしていたとも言われています。

## 巻頭言

キリスト教文化センター長・移植医療支援室長 力石辰也

2017年は日本で臓器移植法が制定されてから20周年になります。この法律は2009年に改正され、本人の意思が不明な場合にも、家族の承諾があれば臓器提供が可能となりました。これによって、臓器提供は大幅に増加するものと予想されましたが、日本臓器移植ネットワークの統計によると、法改正後も臓器提供数は伸び悩んでいます（※1）。世界の臓器提供・臓器移植数の統計を扱っているInternational Registry in Organ Donation and Transplantationのwebsite（※2）によれば、2015年の日本の臓器提供数は91件で、人口百万人当たり0.72件でした。一方、ヨーロッパ諸国の人口百万人当たりの臓器提供数は国によって多少の違いはありますが、概ね10〜30件以上ですので、日本の臓器提供数がヨーロッパ諸国と比較して著しく少ないことは明らかです。ヨーロッパ諸国で臓器提供が多いことには様々な理由があると思いますが、キリスト教の影響があることはおそらく間違いがないでしょう。カトリック教会は半世紀以上も前から、臓器提供を他者への愛の行為として肯定しています（※3）。前ローマ教皇のベネディクト16世は、ドナーカードを常に身に付けていると公言しておられましたし（※4）、フランシスコ教皇も臓器提供は隣人愛の証であると述べておられます（※5）。欧米諸国のキリスト教徒は、臓器提供を、自らを犠牲にしたイエスに続く行為として肯定的にとらえているとも考えられます。日本カトリック司教団は、2017年3月に発行された「いのちへのまなざし」増補新版（※6）で、「臓器移植——生体間、脳死後、心停止後のどのかたちであつ

ても——を、希望を失っている人に健康を取り戻させ、生き永らえる可能性を与える現代医学が切り開いた福音と述べて、わたしたちは評価し肯定します」と述べています。一方で、「移植医療が盛んな国では、『臓器が足りない』ということばがしつこいほど繰り返されているといわれます。臓器を部品のように見、提供者が死ぬのを待ち望んでいる社会は、健全だとはいえないのではないのでしょうか。」とも指摘しています。私は日本の現場で移植医療に携わる者の一人として、移植医療にかかわる医療従事者や移植を望む患者が、提供者が死ぬのを待ち望んでいることは決してないと断言できます。日本は欧米諸国と比較して臓器提供の数こそ少ないけれども、きちんとルールを守りながら、地道に移植医療を行っているのであり、現在は臓器移植を必要とする人々に十分な臓器を提供できる時代に備えている段階なのだと思います。臓器提供について考えることは、終末期医療や生と死の尊厳について考えることにもつながります。聖マリヤナ医科大学で学ぶ医学生・看護学生や教職員の皆さんが、本学の建学の精神との関係も考慮しながら、時にはこの問題について考えてくださると幸いです。

※1 <https://www.jotnw.or.jp/>

※2 <http://www.irdat.org/>

※3 教皇ヒオ12世「イタリアの角膜提供者協会代表者へのあざむき」1956/5/13.

※4 <http://www.timesonline.co.uk/tol/comment/fatih/article4673438.ece>

※5 <http://www.indacatholnews.com/news.php?viewStory=25737>

※6 <http://www.jotnw.or.jp/>

※7 <http://www.jotnw.or.jp/>

※8 <http://www.jotnw.or.jp/>

※9 <http://www.jotnw.or.jp/>

※10 <http://www.jotnw.or.jp/>

※11 <http://www.jotnw.or.jp/>

※12 <http://www.jotnw.or.jp/>

# キリスト教文化センター活動状況(平成28年度)

2016年度の活動内容をご報告致します。

★4月8日

○医学部入学式

○看護専門学校入学式

★4月11日

○新入生オリエンテーション

★5月24日

○新入生歓迎会



▲新入生歓迎会にて ▼新入生歓迎会の食事風景



★6月3日・4日  
○「カトリック大学キリスト教文化研究所第28回連絡協議会」に参加(於…神戸海星女子学院大学 力石辰也)

★6月20日

○第9回「キリスト教文化に触れるつどい」(CC倶楽部)「キリスト教と音楽―シュバイツァーとバッハ」(ギター…内山修太郎(医学部4年) 案内人…土居由美)

★8月6日～7日

○日本カトリック医師会主催「第32回カトリック医療関連学生セミナー2016 in 北海道」への参加(小田武彦・岩下光幸・清水泰子・看護専門学校3年飯田瑞紀)

★10月4日

○機関誌「いぶき」83号発刊

○聖マリアンナ医科大学創立者故・ステファノ明石嘉門博士と亡くなられたすべての教職員学内追悼ミサへの協力・参加



▲▼病院で行われる看護専門学校学生によるキャンドルサービス

★10月5日

○解剖ご遺体追悼ミサへの協力・参加

★11月28日

○クリスマス・イルミネーション・点灯式後のクリスマスパーティー

★12月20日

○聖マリアンナ医科大学看護専門学校クリスマス集いの協力・参加



## 上智大学グリーンフケア研究所・人材養成講座

### 集中実習受け入れについて

キリスト教文化センター 土居 由美

平成27年4月に改正されたキリスト教文化センターの規程「スピリチュアルケアに関する研究および講演会等の開催とともにスピリチュアルケアに関連する事項を業務として行う」に基づいて、当センターは同年より、上智大学グリーンフケア研究所・人材養成講座の集中実習受け入れ担当部署として活動しています。

病院長の指揮下、緩和医療学（愛和病院）寄附講座、看護部をはじめとする学内の様々な部署のご協力を得て行われてきた同実習も次第に回を重ね、第4回、第5回を終えました。

午前中は教育棟でグループワーク、月曜日から木曜日午後は病棟やセンターで患者さんとお話しをさせて頂くというスタイルの本実習は、医学生の皆さんの夏・春の休み期間中に行われており、本年度の日程は、第4回…平成28年8月15日（月）～19日（金）・第5回…平成29年3月13日（月）～17

日（金）でした。

実習生と患者さんとの会話実習を受け入れて下さった病院部署は、第4回…8西病棟、6南病棟、6北・西病棟、別5北病棟、腎臓病センター、第5回…7東病棟、別館5北病棟、腫瘍センター、腎臓病センターです。

また、実習期間中に行われる本学スタッフによる講義は、第4回実習では乳腺内分分泌外科の津川浩一郎教授が「乳癌の治療について」と題してバイオメデイカルな諸データを提示しながら、乳癌に関する最新の知見を幅広い観点から分かりやすく論じてくださいました。第5回実習では神経精神科助教の榎野宣久助教が「自然な悲嘆を目指した終末期での介入」と題して、有限な人間の生命において不可避の様々な悲嘆に自然に向き合うことをテーマとして、丁寧に

お話ししてくださいました。キリスト教文化センターには、同実習とも関わるスピリチュアル

ケアやグリーンフケアを扱う書籍も所蔵されています。日頃、皆様の目に触れる機会は少ないかもしれませんが、医療において全人的ケアの対象とされる苦痛（身体的苦痛、精神的苦痛、社会的苦痛、スピリチュアルな痛み）のなかの「スピリチュアルな痛み」に対す

るケアについて考える際に、ご参考になればと思います。折に触れてお手にとって頂ければ幸いです。また同実習等についての情報もご提供いたしますので、お気軽にお声をかけて下さいますようお願い申し上げます。



第4回…夏の実習（報告会にて）



第5回…春の実習（報告会にて）



実験動物慰霊祭当日  
出席する2年生がお花をもってクリ文へ  
感謝と慰霊の想いをこめて



授業の合間に一息

キリスト教  
文化センターの  
日常を写真で  
ご紹介します。



あと5分で授業開始!



部活の合間に一息  
今日はなぜか男性ばかり...



お昼休み和やかに  
センター長の姿もあります



クリスマスツリーも  
仕事は進んで男子学生中心に



「お菓子の家」製作  
あと7分で授業開始...



クリスマス会当日お昼休み  
「お菓子の家」製作を  
手伝う学生たち



ツリーには飾りの他に  
実(お菓子)も熟し  
そろそろ収穫の時を迎えます



お菓子の家・クッキー  
アドヴェントカレンダー



クリスマス会準備のために  
クリ文に来てくださった  
看護専門学校の先生たち  
スピード感が違います!



華やかな看護専門学校の  
先生と学生さんたち



歓談の様子

そして冬のある日  
3F 吹き抜けから  
キリ文を見下ろすと  
早期体験実習の合間に  
やってきた一年生たち  
クリスマスツリーの  
木の実を収穫！



聖堂の入り口にも



早期体験実習の合間のひととき



もうすぐキャンドルサービスの季節  
授業後のキリ文では  
聖歌を□ざさむ  
MCCの学生も♪～♪～



素敵な笑顔

## □本棚から□

現在キリスト教文化センターに所蔵されている書籍の中から、二冊ご紹介いたします。

キリスト教文化といえば、絵画や音楽、建築などを思い浮かべる方が多いかもしれません。しかし、ワインやビールなどのアルコール類と共に、お料理やお菓子もキリスト教社会の中で培われ、心身を養ってきた豊かな産物です。

古代末期に発祥し、中世から近世へとキリスト教と共に社会の中に溶け込んできた修道院の中で伝えられてきた伝統的なお菓子を知らながら、キリスト教文化を味わってみてはいかがでしょうか。

(※画像の掲載については出版社の許諾を頂いています。)

○丸山久美著

『修道院のお菓子』

—スペイン修道女のレシピ—

株式会社地球丸2012年

スペインの家庭料理を学び「MI Mesa」を主宰する著者が、スペインに14年滞在していた間に修道院めぐりをし、実際においしいと感じたお菓子の数々を、作り方と写真を交えて紹介した書籍です。様々なお菓子を販売するスペインの修道院や、キリスト教の歴史と曆のなかで育まれたお菓子のいわれなども紹介されています。

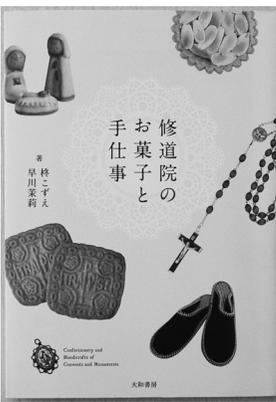


○終こすえ・早川茉莉著

『修道院のお菓子と手仕事』

大和書房2013年

本書は、主として国内の観想修道院のなかで造られ、販売されているお菓子やカード、ロザリオや蠟燭など手造りの品々を、豊かな自然の中にある修道院の歴史や日常生活と共に紹介した書籍です。四季折々に祈りと手仕事によって紡ぎ出される品々を通じて、私たちの身近にもある祈りの場、修道院を知ることが出来る書でもあります。



## Christian Culture Club (略称: CC倶楽部) の報告

キリスト教文化センター長 力石 辰也

第9回CC倶楽部は2016年6月20日に教育棟201教室で開催されました。今回のタイトルは「キリスト教と音楽(2) ギターの音色を聴きながら」で、ギターの生演奏を医学部4年の内山修太朗君が行いました。案内人の土居由美さん(キリスト教文化センター)が、キリスト教と音楽と言えばパイプオルガンやオーケストラ、グレゴリオ聖歌などが思い起こされるが、ギターによって親しまれているものもあると紹介してくれました。例えば、ドミニコ会修道女によってギターと共に歌われた「ドミニクの歌」もその一つです。この曲は1960年代の大ヒット曲で、現在でも時々ラジオやBGMで流れていることがありますから、メロディーを聴けば、「あつ、聴いたことがある」と思われる読者の方も多いと思います。内山君は「Amazing grace」「Ave Maria」「主人の望みよ喜びよ」「主よ御許に近づかん」「I dreamed a dream」の5曲を演奏し、土居さんがこれらの名曲のキリスト教的な背景を解説しました。約1時間の生演奏を楽しんだ後は、キリスト教文化センターに移動して、軽食と少量のアルコールを参加者みんなで楽しみました。CC倶楽部は信仰ではなく、文化としてのキリスト教を楽しみながら学ぶ会です。今後とも適宜計画を立てますので、皆様の気軽な参加をお待ちしています。



## キリスト教文化センターによせて

調達部 購買・物品管理課 主任 山崎 貴史

本年度より調達部 購買・物品管理課に異動となりました。4年間、学務課に在籍しながらキリスト教文化センターの事務担当として4月の新入生オリエンテーションをはじめとし、新入生歓迎会、公開講演会、年度末のクリスマスマスの集い、また、力石センター長のもと新たに立ち上げられた学生・教職員のためのキリスト教文化に触れる集いCC倶楽部 (Christian Culture Club) 等、年間行事の参加、日程調整、学生との連絡及び打ち合わせを行わせていただきました。



2017年3月まで  
キリスト教文化センター担当だった  
山崎さん

CC倶楽部では、教室、セミナー室、教職員ラウンジ、外聖堂及びキリスト教文化センターなどを使用しながら私達教職員と学生の交流の場としました。少しずつではありますが、今までとはちがった角度で食文化、美術、音楽などいろいろなジャンルをテーマとした活動が、キリスト教文化を楽しく学んでいく機会とできたのではないかと思います。

至らない点など多々ありますが、今後ともこれまでと同様に私なりのお手伝いが何かできればと思っております。

## 「第32回カトリック医療関連学生セミナー」

2016 in 北海道」に参加して

聖マリアンナ医科大学看護専門学校38回生 飯田 瑞 紀

今回私は、平成28年8月6日(土)～7日(日)に実施された第32回カトリック医療関連学生セミナー2016に参加する機会を得ました。セミナーは、“ともに成長する親と子”というテーマに基づき「児童養護施設で暮らす子どもたちとさまざまな親と子の形々」、「子どもの笑顔を守るために子ども虐待の防止にむけ」、「親と子どものための性教育」性教育の目的とは何か」、「いのちの始めと母と子のきずな」という講演の聴講と、各講演後のグループディスカッションで構成されていました。

私の一番印象に残った講演は、児童養護施設での話でした。児童養護施設では、ネグレクト等の虐待により家庭で家族と一緒に住めない子どもが生活をしています。が、児童養護施設の職員は施設的環境・設備や関わりをより家庭に近づけていこうと様々な工夫をしていることを知りました。複数の

人との共同生活である施設に入所している子ども達が一人ひとりの誕生日を祝い、日常でも「生まれてきてくれてありがとう」という言葉を伝え、食事では好きな食器を選べるような関わりをしています。このことから、たとえ子どもであっても一人ひとりを尊重していくことが大切であり、このような関わりが子ども達の自尊心の向上に繋がっていることを学びました。

また、講演後のグループディスカッションでは、講演の感想とそれに対する意見についてお互いに共有し合い、最後にグループの意見をまとめて発表するという形式でした。グループは臨現場で活躍している医師・学校の教授・事務職員など、様々な職種で構成されていました。私が所属したグループでは学生は私一人であつたため、話し合いについていけないのではないかと不安でした。しかし、それぞれの話は学生の私でも分か

りやすく、様々な職種の視点からの意見を聞く機会ともなり大変勉強になりました。講義を聞くだけではなく、グループの中で一人ひとりに焦点を当てた意見交換、そして全体のグループからの意見を聞くことで自己の見識を広げることができた有意義な時間でもありました。

セミナー会場の天使大学には多数の医療関係者のほかに、十数名の看護学生が集っていました。様々な看護学校からの参加者であつたため最初は皆がとても緊張していました。が、天使大学の看護学生が皆に積極的に話しかけてくれ

たので、すぐに打ち解けることができました。研修1日目終了後には、看護学生全員で札幌周辺の観光地を巡ったり、写真を撮ったりと思いつに残る楽しい時間を過ごすことができました。

今回、このような機会を与えて頂き本当に感謝致します。カトリック医療関連学生セミナーは多くの学びや思い出が得られる機会なので、もっと多くの医療関係者・医学生・看護学生に参加してほしいと思います。来年は私も看護師となる予定ですが、今後は医療関係者として本セミナーへ参加していきたいと考えています。



(筆者)

サッポロビール園で

外海の出津集落遠望

文と絵 岩下光幸 (キリスト教文化センター)



長崎駅から車で北西へ西彼杵半島に向けて40分ほど走ると、「道の駅 夕陽が丘そとめ」に到着します。この外海（そとめ）地区の出津集落は、「長崎と天草地方の潜伏キリシタン関連遺産」の名称で世界遺産登録を目指している、その構成遺産12か所のうちの一つになっています。

17世紀から続いた禁教政策の中、この集落に住んでいた潜伏キリシタンは密かに信仰を守り続けておりました。この集落から多くの潜伏キリシタンが五島列島などに移住していったと言われております。明治時代に入り禁教令が解かれ、外国から再び宣教師が渡来しました。この地区に赴任したフランス人の宣教師、マルク・マリー・ド・ロ神父は、あらゆる分野に精通し、多才な能力がありました。彼は、この集落に教会、生活の糧とするための色々々な施設・工場などを建設していきます。そしてこの地区は産業・社会福祉・土木・建築・医療・教育文化・布教・信仰の拠点となっていきます。

この地区には出津教会、その下には、ド・ロ神父記念館（旧鰯工場・保育施設）・旧出津救助院、旧製粉工場・旧マカロニ工場施設があります。集落の中央には歴史民族資料館、修道院、保育施設、老人福祉施設があります。

「道の駅 夕陽が丘そとめ」からは、出津集落が一望でき、その名前のとおり夕陽の景色が大変美しいところです。「沈黙」で有名な作家の遠藤周作文学館も近くにありまして、一度訪れてはいかがでしょうか。

キリ文便り (編集後記)

キリスト教文化センターはすべての教職員・学生さんのための開かれた施設です。皆さんには、職務・講義・実習の合間に気軽に立ち寄っていただきたいと思っております。運が良ければ有志がもってきてくれたお菓子やお茶があります。残念ながら常勤の教職員がいないため、いつでも誰かが対応できるわけではありませんが、学生さんの昼休みの時間帯には兼務の教職員が対応するようにしています。本号に掲載された写真にもみられるように、堅苦しい雰囲気はなく、訪れた人はみなリラックスしてお話をしたり、本を読んだり、音楽を楽しんだりしていただけます。キリ文を訪れてみようとは思いますが、何となくきつかけがつかみにくいと感じる方は、賞味期限が少しだけ過ぎてしまったお菓子をもちこたう生さんたちには、全く気にすることなく喜んで食べてくれる人がたくさんいます。お菓子を捨てるという勿体ない行為を回避でき、かつ新たな話し相手ができるなんて、一石二鳥ではありませんか。皆様のおいでをお待ち申し上げます。



クリスマス会に作った「お菓子の家」も、あつという間に、こんな風になるからです。

発行 聖マリアンナ医科大学キリスト教文化センター  
〒216-8511 川崎市宮前区菅生2-16-1  
印刷 編集 力石辰也  
〆〇四四(九七七)八二二(代)  
佛城南印刷センター